

366

は僕らには初めての甚に珍らしいものだ。傭の工合
とて既にいふから二先ほど失敬した。江戸っ子
に無上の珍味と謂はねばならん。お市の
お仲間も七八名集りスリ振りの奉話会が、期せ
ずいて催され、自來初めての團案的欣快事
だった。

今から二ユース報道に際し、ハワイ本邦に
各区域から代表者一名宛集會し、持参品の上
主任側で取捨一同が筆記にて、又々報道す
る事と議一決、西北部から僕が此の事
をした。勿論、各手許へ来る英字紙の概
譯だが、幸地方のオラウハ紙を購讀する
やうにも成った。

頃日傭の工合は一連一區だ何分も Aiet が得
られぬ。此上何んとも致し難い。此れも戦争だ。

② 更に移動騒ぎ

五月廿三日、全員更に他へ移動される旨非公表
発表があった。而も目的は例によって秘密にされて居り、
單に三昼夜と要する遠程で高度の地域だから車
中一夜から二夜程度の overcoat を携帯する事が如
いといふ。即ち車に乗り込み、是よりキャンプ場
はデマカ強烈に湯流のやうに流り渡って、殆んど
収拾がつかぬところから、先て半週土曜が或は全
曜日頃に此方と豫定されておとの事。

367

其後向とも、確か 24H頃にと思ふ、4国代表か
ら改めて、愈々全曜(廿二日)を祭、目的地は
Lomianan-川の Camp Livingston であり。一昼夜のり
程、夜中の冷氣に備へるものの外、履の用意の事
荷物は全部預け、Mission 主務の全権、運搬
其他を任せるだけの手授けだけが許されること、正
式通達である。

リビングストンへ向けは tent に起居し、tent 内に
は立札乃至名刺が収容される。ニューオリアンズ市から
は百哩内外であり、要するに金貨送還の前提にほか
うらぬ。或は帰国希望者のみを企地に送り、他は
盡く Livingston へ護送されてあらう。イヤ今回
祭者の場所は言葉通しには受け取れぬ、米政府
今日までの吾人に對する、やり方から推測して、何れに
送られるがらん。或はワシントンに其れとも属々
問題視し、諒議せられ New Mexico に遣ふ。こ
流言は速く投書できぬ。中にはリビングストン
には米口有数の約一万名を収容できる大刑務所
があったので、其れを今度時人収容所に更改
せんに遣ふ。これは周囲鉄條網ではなく
高壁を次で圍う、單に天空を仰ぎ得るほか、
絶對に外望は意の如くあらぬ凡そ陰鬱そのもの
と見て来んやうな事と言ふ。これはオースティン
の詳述も其の説明である。それとて、南及び
坤周の如き両名が、憎たがいに觸れ廻る、

西北部連仲間には実に悲喜交々な、なか現存の
雨漏りテントの生活と塵風裡の起居には、一般に
不満であつた。他へ、移動は、此下ではあるまいと
の一種の望みがあるやうではある。然し生活に対する
愛着心は此処にもある。住めば都だテントでなければ
切角慣れ始めた地だけに働き度とはちと違
い起すものがある。人間性の中實でありまた祖子と
離れ海外勇義に何十年間を送つたものの偽はざる
情感でもあらう。

⑤ 同胞また死亡

五月廿五日、去つた二日入院を強制された加川の
下田達治氏は遂に永眠した。故人は其
れ程にお康と病との如くであつたか。同じく悲
劇性と露は、軍医の注射実施の結果面白からず
遂に死亡した。尚病氣は梅毒性脳病であ
る由。

廿六日午前、例の通り佛式で葬儀が営まれた。
此日から午後には全員南部寄、鉄條網内の
通路に集合の上、人員異呼かりはれる。午の白度
内外の灼熱中、半時間にも亘る間立たれる事は、
老人に取つて、殊に病弱者には一大苦痛である。

これは出発同様までおぼれたのであつた。

我が七番tent前にオ野老が切角植へた花
の苗が一は発育し、是より後に人目とシタといふ
段に成つてゐる。此れも心から惜んで我々は

369

それが今を乞うものあり、企君は其に應じてゐる。
 お野さんが花を植へて、切角の物に成ると移動
 命令が出る、もうそれは植へぬ様頼むと、元次
 と言ふから企君の苦心と情癡的所をいふ、さか
 らす企情する共に自らも花葬に對する美に心根を
 吐露する、趣味の人と多あつた。

△ 出 発 △

出発前日の廿八日、午前七時迄各班は指定の
 位置へ荷物を集めて置けてゐる命令に、早朝六
 時頃から大變な騒ぎで各テントからは一割の
 荷物が出され山に積まれ、其の班は佐藤君の
 意向で、Suilence 等と Bago 等とを別々に並べる
 のは気が利いてゐる。

④ 廿九日出発。此日は breakfast は一時早め
 て午前六時、わいの病人組は五時廿分である。在
 米何十年、Fishing に出かける日曜朝を除いては、
 こんな早飯は稀有の事だとも謂へる。

午前八時、ABC 順に整列、人質臭呼かり
 はんおわに監督、少佐から、テント内に隠匿し
 居残つた者と発見した場合には射殺すべしと
 威嚇的申渡からつた、一つの戦争風景が描
 出され聊かの緊張感と見らるゝのでつた。

八時過ぎに五列隊を組み一同出立。其の病
 弱者連は五台の車十数軒から衛生隊のドラック

370
360

で管内乗車地へ運ばれた。トラックには前後に
実弾の入った銃を抱へ護衛兵が屈屈とうに
同乗していたが、兵らは銃や機関銃の銃口
には慣れてゐると共に、打たれるやうな事は仕舞いと
いふ観念的度胸に、凡そつんじりて了。

この乗車地裏は此も物々しい光景を呈してゐた。
各人隊列の両側には銃と機関銃の兵が圍繞して
水も濡らぬやうな監視振りで、僕ら病弱者連は
此方にて一同に合ひ別動隊として前方後側へ立
ち並ぶ。坪井君が杖に頼り、一名の兵に銃をかま
へられ、たつた一人足歩かせながら進んで加はつたのは
痛々しく見るに堪えなかつた。

順次乗車し病弱老人組は最前の車に送り込ま
れた、最前の車室はさう後部からやうだが、僕等
数名の席がふい。

乗車に寄り振り返つて見ると數十名の武装兵
が最前に垣を成し、銃口を差し向け殆ど引綱を
寄せるやうに、乗車口に向つて遠巻きに逐次迫
つて来るのは、甚に物騒な威光に打た。居々次
洲の西真に見る捕虜護送にも見るやうでさ
ういふ、やうにき取扱ひである。

疾く乗車、護衛兵が兵らのうちの若き者は席
を譲れと高聲に叫んだ。僕と坪井君とにはハナマ
の人のいふ青年が席を明けて笑ふ。向もよく監
督を佐は部下を連れ、十何名の人質をまた

371

別室の空席に配置し、僕等の隣の空席と
造つてくれた。僕は一対端の席を独占するに至つた。

車は向もろく発し、管内を徐行し、居々停車には、
遂に汽笛と共に出発 時に午前十時半。

ロウトン市を過ぎる。最近車平工率等其他のたの
處に人口増加し住宅難に陥つてぬる。預はれて居る
が、車止からの聲では判りな答はない。

大陸南端地帯の汽車旅行に於て、流石は例によつて
廣茫たる原野が大耕地に化し、白くまるたけた。道路
里人を見るのは南部の特徴でもある。面白く事には、
耕地に点在する農家の洗濯物によつて、黒が白の
見分けがつく、凡そ色彩の濃厚な衣類が干してある
家は里人と定まつてゐる。だがWyomingの横断と違ひ、
さすがは、樹のり見る限り青々と農耕地の豊かさを想
見てゐる。然し変哲も、大陸のモントラスには変りは
ないのである。カラスに花が咲いて、道路に奇怪な
姿を弄してゐるのは、僕等都会生活に終結したものは
真に珍しいものであつた。

オラウマ川境を過ぎテキサスの一角を駛る、意
外の風物は駭ておらの目を飽ませるのであつた。テキサ
ス州の唯一のダラス市驛で前夜一時半以上も時間
を経過した。既に夕景に入り、ネオンサインは光々として
大抵は何処に於るや、物珍らしさにおらの列車を
打ち眺める都人士の面影には更に緊張味を見えぬ。
アメリカは廣々とその感じに打たれる。市の外側に停

372

車中である。車の右側は既に厚野ふもと、テキサス州のミッドランドの街が想像できる。窓から見ると尊厳に無頓着の虫が、冷たい夕の光に乱れては死に、この工場の汚染環境にあって、美しい虫の光りこそは泥中の毒にも似て飲まねば、感に打たれるのである。グラスを冷たくして道に虫が突滅するのを見られ限りなき平和の心情を呈してゐる。

酷暑の裡に車中このまゝ、ごろ寝にぐっすり寝込んで了ふ。翌朝に成って全身の知覚と疲労と軽い痛みを覚へた。今度の旅行には、カードが武装に成る事は言ふまでもないが、従来の様な便所への出入監視などは仕舞い、極めて寛大である。カードの兵連は相変らぬ春気をもつて、歌を唄ひ雑談と交へ喫煙は男と儘ふらは、いつもと変りはない。

翌朝目覚めれば既に Louisiana 州である。日本の画の紅で描いたやうな朝日が松林の彼方高くに横天に浮くが如く鮮やかである。日の出といふよりも日没の感がある。

やがて日もとのほかりの緑濃き清々の一 town を過ぎる。見る限りの美しい芝園は緑樹に掩はれ、Swimming pool を覗はれる。道路には一塵埃をも見られぬ。樹の向に実在する住家は近代式のバンガローが多く、一見は富んだ町である。事が親知し得るのである。今迄廣茫限りなき大耕地原に、うんざりしてゐた僕らの眼には

373

正に Oasis と見せられ、一瞥に讚美せざるを得なかつた。

最初停車場のドアに White と 瞬時に標してあるので、所名をホワイトとはかり右側に進んで了つたところ、後程南にすると、別の建物に "Colored" と記され、右 White とは、白人種出入口だと判明した。所名は Natchitoches と称す。蓋し油の成金達が牛取つてゐる一か都市でもあらう。向ひに Alexandria 市に着き、黒人男女が到處に在在するのには異存を感じた。しか、やがて Camp Livingston 着。管内に停車したのは六月廿日午前十時頃である。

例によつて列車の両側には、武装の兵が守備厳重と極め、向陽を取つて軽機銃を向け、兵が物々に其の向ひ立ってゐる。物珍らしいや見物の雑兵、兵が酷暑をものともせず垣をきいて兵の乗車を待つて居るのを見たか、中ムキヤムと抱へて待機して居る者二三人を見たか、衛兵の警戒の厳しさと、キヤムは銃を取り上げられて了つた。即ち兵に閉鎖され、写真撮影もいとは Publicity は極めて慎重にされてゐるからである。

下車、灼熱視に立たせられ、半駱に僕ら新到着連は衛生隊トラックで送られ、他は右列縦隊例の如く Camp 迄二哩と歩いた。約十分程進んで新到着組トラックは戻つたのか、途中にて徒歩組を追ひ越す。見れば隊列の両側は嚴に武装兵

374

が、今迄に、護衛掘りに、殊に驚いたのは、殿に
約一中隊の兵員が「構へ銃」の姿勢で、恰もS1掘
で奥とスチーズに追いつき立てるか如く、追隨し
つゝの支那兵も目撃した事である。後程南と監督
官兵は、途中居々に配して休息いかんを尋ねるが、
一同は此れを謝絶して一途、二哩を歩行し、鉄
條掘りの新収容所に出り着いた。

収容所は Sill の其れと異り、部分的のバラツクであ
る。一舎十名を限度のキヤパシティとされて居り、
バラツク周囲に却は外柵より柵内を穿つねらうて、
縄をアゲるとして今掘を張つてある。グラス窓も数ヶ
処にあって採光の良は百パーセント、空氣の流通は
勿論申分なく Summer house には文句はない。
電気はシケルに、天井からツリ下り、ストーブはニケル
ル備へてある。ベツトはマウス及びスプリングも布
及び布圍は各一枚交し、枕。但しシーツは供給
されないのは不足に爲めである。

鉄條掘の周囲外側は通路にあり、通路の外
側には更に鉄條掘を繞らし、監視塔には衛
兵が立つてゐる。Sill のヤール機関銃の威嚇
装備はしてある。キャンプは十ヶのセクションより成り、
右 Section 毎に 34 のバラツクが設けられてゐる、
但し右 Section 毎に通路によって往復、自由は禁
じられて居る。我々松林の向ひ位置に恰も auto
Camp の威あり、食物さへ良ければ保健上にも好

375

適地と言へやう。但し便所、洗面所、風呂、
洗濯場、建物への距離が、そのバツクの位置
により遠近があるが、不便な。

最初ABC順に従って、配置されるのは二区域に
分つて分宿するに到つたが、数日後には中島の了解
を得て、従来通りかゝり、西北等が一箇となる
を得た。即ち「二区域」は、Panama及び布哇連が
全部移り、Section Kには其他によつて占領される
事になった。

初の到着に際し、各員が夫々好む文に從ひ、
友人連のグループに依つてバツクに腰をすへるであつた
が、先占権を楯に色々といふ紛擾があらつたのは、浅ましい
限りである。

各区域の鉄條網出入口には、たった一人の棍棒
持った兵が立つてゐるに過ぎないのは、余程緩慢な
処置と見られる、日米人の何んであるのか漸く了解
に來たものが、或は中央政府から特殊の立場に置
かれてゐる、或は對し何らかの待遇上の指令があつた
のかも知れん。

外側のバーブドワイヤ垣には何向か置き、
二燈の電燈が備へられ、見張塔には更に強力
の電氣照射が光々と松林の暗夜に照らす
監視に當る。

到着の日の向も無く、全員集合の上、Fort Sill
から同僚の監督少佐から、正式引渡しの挨拶と

376

其の、Sillに於て克くゴオホレイトに規律正しかった
如く、前所にも全杯に終始して貫く度、旨と声明
に拍手を以て迎へられ且つ good bye の歓声によって
送られた。戦時中の軍需と非戦需在米同胞との
期せざる交歓だ。

② 食 事 ②

中キャンプの食事は、Sillの其の比すれば倒倉肉
題に於ける粗末なものである。供も量か少いのも不
満の事誘つてゐる。無補償のやうな胃腸病者に
対する Diet ならざるべき筈はさう。大体食糧が
ライの兵隊用のものに於ては、名状し難い。一種の臭気
は、此も僕も appetite を唆らさう。

でも、粗食の不満を唱へながらも血も平しうか
ねに云々勇敢な仁か多いのには驚く。乃ち食事に
対する不満は、量と質との二派ある譯であつて、前
者にとっては「不味い」と悲鳴をあげるのは、量か少い
やを意味する。僕はもつとウマイ物を食はせろと
いふので、量には限りがあるが滋養と味とには
もつと改善すべきだ。心配するのは下ツ葉の兵隊
どもが頭でもはわて居るのか、それにセーフだから
良いか減らして置け位で片着けて了ふとすれば
何んか取らるべき手段があらう。

③ 下 駄

下駄を造つて誰れもか履き始めた。皆は奇用だ。
僕には、崎村君が一足造るのを笑ひ、十野君が

377

中格的の軍靴をこしらへてくれる。三十何年振りで下駄を穿との。床つしを皆が下駄で歩き廻るので大層いさへ堪へてかつたが、今では耳慣れて古い靴を穿つのは稀れに過にぬ。食糧係の一兵隊が一定の値をうけ持つてぬれ、一般人に懇請の上、持て貰ったといふ。流暢へおかけのしは下駄が甚に便利でもあり、日常でも頗る衛生的である。日本人は何処迄も日本人だから嫌いの限り。

⑨ レヂイオ ⑨

レヂイオは一度検査のしめ附り上げられたが、其の返却を公然と聴取する。僕等の班ではお待たせの聴き役に於て、毎夜の放送に力めてぬ。おまニユースは簡であるが、一晩早い処に皆にアッピールする。

⑩ 賣 店 ⑩

今日迄(六月廿一)に \$200 と \$190 の二回に亘り、coupon が渡された。賣店はお粗末なものだが、煙草、齒磨から靴磨まで、ペン、ライター、pencil、ink から靴紐それから Candy bar であるが、其れども一般要求の品々に欠けてぬ。日本人が二人掛りで賣りの仕に當って居る。何れも其の自身の現金は統て保管され、米政府から月額二回の割合でキエポソが支給される予に成つてぬので、喫煙家連にしてみれば十分とはいへない。けれども、該戦争が長期に渡るとせば、平和ねと見

計じ結局は、この方が得策に違ひないので、被収
容者中には一千万近い現金を付管されてゐる人か
らゐるといふが、大多數は持参の少類と、家族から
の送金に過ぎない。又立退きに出る際に家族
連れに引かれても、収入より今日貯蓄と徒費するわけには
ないといつてゐる。

飼育者が其の金部日本人の手を交わされてからは、食
事は稍々改善されるに至つたが、尚ほ不満の気持は残る
もの。或る時はブレイクがたつた一片死か渡らぬ
時をへらつた。殊にミルが十分であるのは營養上
最大不満である。或る一帯で二日は絶食するか
大部分の食物を其儘手を着けずに捨てて見せろ等々
の憤慨者もあり、僕も賛成には、量不平連れに引つては、
倒れ込むに違ひない事である。付する外に依り、書
信検閲官が食事について不足を唱へる者と又
満足、意を惹く人連れから、果して何れが事實
であるかと尋ねたと言ふ事である。とまれ、僕らは
こんなマズイ食事は曾て沢山口にしていた事はない。
口が笑ひたいと言へば其れ迄だが、こんな生活を敢
てしたのには、自らその生活、エンゲイする事を life
の本然だと信じてゐるからに過ぎない。

② 病人 ②

毎日診察を受け、ものは午前一定時間、豫め報
告の上、着視付で一同柵内の病舎へおかれ、こゝに
成つてゐる、その田中下の方が診察の仕方を留めて

店とか、毎日20人から40人にも達する。

④ 交換船の事④

日米両口の外交官其他交換は、この第一回船が六月十八日短育とあった。南キヤンパから会社員其他、約三十名足らずが逐次本帆港へ向け護送され、佐賀市男衆また第一回の送還命令中へ加へられ、六月四日午後四時、早知と出た。家族とは短育でお別れを言ひなつてゐる。然るに、我々報道によると、右交換船(Sweden)籍船は、その出帆を延期して漸く前述のジューターに出来たのだと言ふ。僕はこの第一回船に漏れた事を頗る残念に思つてゐる。この出帆命令たるや全く不意打ちで所謂 a moment's notice であるから、帰国希望を申出た者は豫定の準備が必至だ。

(花園)

おかく-A #1906 会社のフロント空地へ、ナ野衆が早速野菜とコスモス及びアスタスの種を撒いて、コスモスは Sill から指差の苗であるが、向とも赤く紅白の花を帯び、この野趣の環境に、実に美しき一実紅を現出にゐる。早朝走き出て此の花に接するとき、男はかり、荒んた心、愛まじき心の目、一瞬の身に情感を注ぐのである。因はれ、身、手は此の優美な情操こそは、いつか程おはれに美しい。御会人へは倒れ見ても、自然愛の発露である。此れを

真似て、他のバラックも亦續々花園を思ひ々の
費匠によつて造り始りし。又野菜の苗床をも其處
此處に造つて、その成果を今から果しんぐ居る。

然るにや野菜菜畑の圓形小花園をめぐり、崎村君
は自ら立つて、これを改造し擴大して、左右に六角形の
床を作り出し、金魚と動植物の大騒ぎをせしむ。酷暑熱
をた軒連が、汗を流して木を運び、土を盛り、僕等
に取つては、只て無生息のエキゾチックの消費とばかり思は
れたい。僕もせまらしたものと云へば、雑草を植へ
若木の松を幾つ引き抜き、エンヤウ運んで来て中
央に、ヒヨドリ植へたのは聊か呆然とらざるを得ない。

いかにも其松たのや、十尺ばかりの、頂上には舞臺き女郎
の乱れ髪がマッおの、針葉が二三束の程、世帯用には
染つてゐる。周囲を見渡せば大い松樹に、舎の前
には自然の松が隅入りに天然の裝飾を描いてゐる。

斯の環境に、更に松を植へて来て、儼々いゝ植えよと
は全く無風流の心なき輩と謂へる。灼熱の午下り
を焼くゝるさの、即ち地を掘り、屋上更に
屋を重ねる、無にさびさびい、奇案だ。風致を思はず
雅を解き、徒ら物を鬼の形を描く、物慾的
の俗悪に陥る。僕はこれを唾棄する。

④ 酷暑

暑 ⑤

この酷暑は実に堪え難きものから、バラック内
に九十五度は晴天には敢て珍らしい。最初
僕は居々眩暈を感じ、箱々ともすれば地上に伏さうと

いた予か何度もらつた。だが今は稍に慣れて眩暈は余りないのは勿怪の事である。但し五、六、七の三日は雨期になるといふにけし、雷鳴と共に沛然たる降雨に一沐の情涼を覚ゆ。その度にはラッパ内には雨漏りがありベツドの位置を變へるべき余儀なくされる。侍りの士官は一度雨漏りを調査に来て修繕を物言つたが其の何度降雨があつても、更に物束を履きかへ。これも戦争か。

⑤ 毒蛇 ⑤

構内に頗る猛烈な毒蛇が居る。既に数匹を捕へてゐる。一度咬まれたら最々致命の毒が全身に廻り命を取るといふ程の怖ろしい代物だ。常として同胞が美しき色の四尺ばかりの蛇を捕へた。一兵隊はこれを見て、毒蛇を殺す大切と蛇だと誤解した。此蛇は毒虫だが、有用蛇だから殺さぬやうにとの事だつた。自然は何処までも調節に巧みだ。

⑥ 亀の子 ⑥

構内の土は粘土の如く水は浸透しない。だが砂も多い。酷暑熱にも拘らず湿氣に富んでおり、そのおかげで亀の子が時々現はれる。之を捕へ樂んでゐる人達がある。亀は少しかつては見ることが出来る。毒蛇、亀の子、亀、何んか奇妙なコントラストだ。

△ 勞 務 △

吾々、現生活に直接関係する所謂キャンプに於ける
 Gentilityには、夫々が勞務に服す義務がある。食堂と初
 の浴場、便所等はバウック周辺から内島の清掃
 には、テック堀り等々総て然るべく命令に服す責
 を負ふ。だが、内容に域外側鉄條網と出た場
 所の勞役は其の義務は無いと解せらるゝのだ。但し
 自費的に軍需の要求を完し就役する場合には相
 当賃銀が拂はれる筈のものである。曾てFort Sill
 に於けるスペイン統領等との会談の筈、明言を博
 しての筈である。然るに此处では殆ど厚い。概
 に此種勞務を強制し、老人連は身も余り勞苦に
 服させられてゐるのだ。吾々の代表者は、これに關し
 軍需局に對し交渉の結果、前記地域について
 の見解を異にするやが利便に、吾々は兵營全
 地域を含むので、勞務に關する限り鉄條網
 の有無も無視して居るのは非難されざるべき。
 中央政府に對つて此に關し同じを立てるから數
 日待てとの事だといふ（これは六月十八日の事）。
 この構の勞務中には相當烈しい勞働に出合つた
 先件連がある。大木の材木を數人で抱へ、車に載
 せ、それを又他の兵士バウック構内に積みおろすのだ。
 先も百度近くの酷暑の中、慣れた勞働である。
 勿論幾千の賃銀は仕拂ふといふ筈ではあるが、強制
 すべきものでは無い。

(イベル在任になった
東州ギヤストンに就任中捕まる)

佐以木(三)

丹原 高橋

384

については、いんふ余裕が無いと見へる。

六月十九日(金)。

今日、立退先の North Portland の日本人 Assembly Center から、突然 手紙の接し。大西昌子嬢から。父を逝去後における彼女一家の心境及び現在直面する社会状況についての感慨、さては僕の健康に対する憂を専らに亘って、例の如く條理整然と簡潔中にも、十分意を盡した書翰である。どうして僕のアドレスを知ったのか、書でミゾラに託したお母さんのお菓子類を送って貰ったに對し、一帖の御状と並に返り今日迄に世にたてられた。昌子は僕の持ち社で廿幾年と働いて失礼、いつも其明敏に感謝も、私に敬意を表してゐたのだ。文面を読むと、父を存命中、二世の evaluation は絶對にいいと父から言はれ且つ信じてゐたけれど、経営のお利便に分に相當困難がらつたために解せられる。彼女の好意は忘れずできかい。

つ
ハ
ワイ
キ
島
氏
脳
え
ん
に
て
お
ま
(

一
廿
日
無
儀

六月廿日(土)。

おごうさんから今日返書が来た。去る十二日落合の昌子嬢の次で十三日おごうさん宛、宛先の返事。今回物にあり、Foster Hotel 置いて来た黒皮の Brief case、時計巻其他二三品の郵送がし付、太お利便の night clerk Johnson 氏